

保証書

☆(販売店の領収書を必ず添付して下さい)

保証対象: Hyper Degauss AX-W3 MK II

☆ シリアル No. **見本**

保証期間: お買い上げ日より1年間

お客様 ご芳名: _____ 様

ご住所 _____

お電話 _____

お買い上げ 販売店 _____

領収書添付欄 _____

WEB版 マニュアル

[修理規定]

- 取扱説明書の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合にお買い上げの販売店、または弊社が無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合は製品と本書をご持参の上、お買い上げの販売店にご依頼下さい。
- ご贈答等で、所定事項の記入がないばあい、又ご転居の場合には弊社にご相談下さい。
- 保証期間内でも、次の場合には、有料修理となります。
 - ① 使用上の誤り及び不当な修理改造による故障及び破損
 - ② お買い上げ後の輸送移動、落下等による故障及び破損
 - ③ 火災、地震、水害、その他天災地変、公害、ガス(硫化ガス等)、指定以外の使用状態による故障及び破損
 - ④ 接続している他の機器による故障及び破損
 - ⑤ 異常摩耗、異常損傷を除き自然損傷と見なされた消耗備品の故障及び損傷
 - ⑥ 指定以外の使い方等、特殊な使用による故障及び損傷
 - ⑦ 本書のご提示がない場合
 - ⑧ 本書のお買い上げの年月日、お客様名、取扱店の記入がない場合、又は字句を書き換えられた場合
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管して下さい。

LH Love Harmony (株)愛和

LH(Love Harmony) は(株)愛和の登録商標です。

日本製 Made in JAPAN

〒410-1121 静岡県 裾野市茶畑 1438-1

☎ 055-994-0150 Fax 055-994-0151

URL <http://ntw-aiwa.co.jp>

E-mail: office@ntw-aiwa.co.jp

仕様

有効消磁及びエージング信号合成周波数 90種以上
基本波 3波 低群基本波周波数60 [Hz] 以下, 高群基本波周波数21,300 [Hz] 以上
消費電力 2 [W] 以下

仕様は改良のため予告なく変更する事があります。 2012 Copyright© by AIWA COMPANY LTD.

御使用上不明な点は上記にお問い合わせ下さい。

(Code HD-AA-WEB)

Hyper Degauss AX-W3 MK II (消磁&エージングシステム)

取扱説明書

本製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。

下記事項をお読み頂きまして、安全に末永くご活用下さい。

安全上のご注意

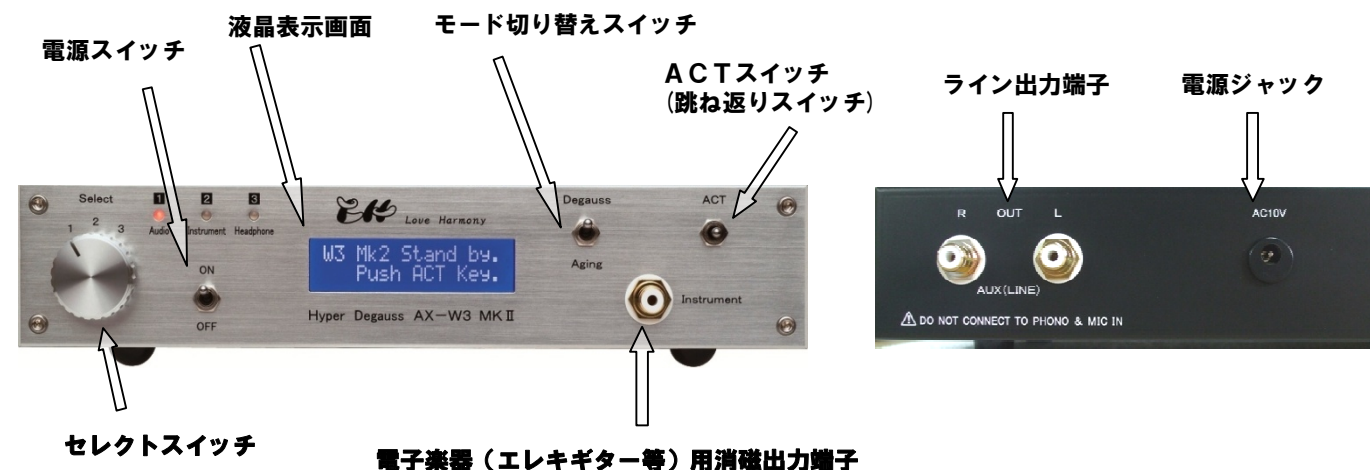
- ⚠ 注意: はじめにご注意頂きたいこと。**
1. ハイパー・デガウス(本器)をアンプの AUX(LINE) OUT 端子に接続しないで下さい。
 2. ヘッドフォンの消磁中はヘッドフォンを耳に装着しないで下さい。(大音量で聞いた場合耳に損傷を与える恐れがあります)
 3. エレキギター等の消磁はパッシブ・タイプのピックアップのみです。アクティブ・タイプのエレキギターには接続しないで下さい。
 4. 内部を開き、基板の分解や加工・改造(プログラムを含む)をしないで下さい。故障の原因になります。(保証が無効になります)
 5. CDにコピーしないで下さい。本器の信号をCDにコピーすると信号を乗算するための片側高域成分全てが失われるため、コピーしたCDでは使えません。
 6. 本器で消磁またはエージング実行中は本器の電源を切らないで下さい。
 7. 本器を実行中低いうなり音(ビート音)が聞こえることがありますが、音叉同士のビートと同じで加減算による空間変調波です。故障ではありません。

- ⚠ 警告: 以下のことは必ずお守りください。**
1. 現在お使いのオーディオシステムのチューニングに満足されている方は、お使いにならないで下さい。(音が変わります)
 2. マイク入力及びフォノ・イコライザー入力に直接接続しないで下さい。(お持ちのアンプ等が破壊される恐れがあります)
 3. 濡れた手で AC アダプターを抜き差ししないで下さい。(感電の恐れがあります)
 4. エレキギターに本器を接続している間は弦を弾かないで下さい。(本器が破壊される恐れがあります)

セット内容……必ずご確認ください。

1. 本体: W250×D170×H50(突起部含まず) 本体質量: 1.5 [kg]
 2. 電源アダプター
 3. 取扱説明書及び保証書(本書)
- 本器には RCA 接続ケーブルは付属していません。お客様でご用意下さい。(RCA ビン-ピンケーブル)

各部の名称



1 図(フロントパネル)

2 図(リアパネルの1部)

機能と特長 (本器のできること)

♪ スピーカーシステムを含めオーディオシステム全体を消磁して活性化し、透明感と音像定位、立体感を鮮明にします。

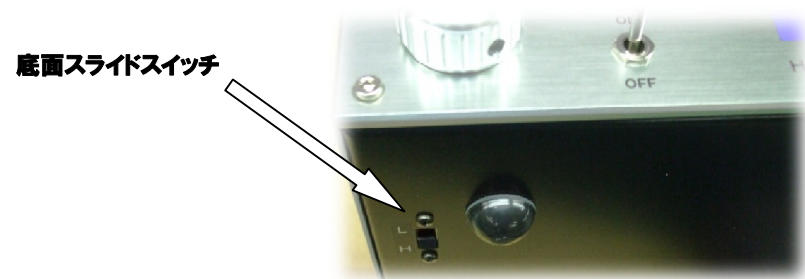
1. アンプ、ケーブル、ネットワーク及びスピーカーのボイスコイルだけでなく、ヘッドフォンにも消磁・活性化効果があります。
2. フルレンジ(シングル)、2ウェイ、3ウェイ、4ウェイのスピーカーシステムの消磁と活性化を可能にした弊社開発の LH-UWF ウルトラ・ウェーブ・ファンクション方式(2010年特許出願済み ※)の消磁器です。コンデンサ・スピーカー、コンデンサ・ヘッドフォンの活性化にも有効です。
3. サラウンドアンプ(AVセンター)とサラウンドスピーカーシステムの消磁と活性化にもお使い頂けます。
4. セレクトスイッチにより1. オーディオ、2. エレキギター(電子楽器)、3. ヘッドフォンとそれぞれに最適化した周波数による消磁信号で消磁、活性化を行います。1、2、3の位置でそれぞれ周波数成分と振幅が異なります。
5. エレキギター等電子楽器用にフロントパネルの RCA をご利用頂けます。RCA-標準プラグ(モノラル)変換アダプターをご用意頂きますと、エレキギター(パッシブ・タイプ)のピックアップコイルの消磁を行なえます。(音のこもりがなくなり、シャープになり、エフェクター使用時の効果が増します)
6. ギターアンプもエレキギター同様前面 RCA から直接ギターアンプを消磁することができます。
7. 帯磁してしまった MC カートリッジ用昇圧トランスの消磁にお使い頂けます。(カートリッジには接続しないで下さい。)
8. ステージ向け音響装置にはミキサーのライン入力に接続することで、システム全体の消磁と活性化を行なえます。
9. システム全体のエイジング機能を搭載し、アンプ、スピーカー等のエイジングを簡単に行なえます。(簡易テスト信号代わりにもお使い頂けます)
10. PC(パソコン)のオーディオカードや外部サウンドアダプタで LINE IN を備えているモデルには High definition 対応(サンプリングが 192 [kHz] が望ましい)であれば効果があります。(本器の消磁信号は 50 [Hz] 付近から 80 [kHz] 付近までの有効周波数成分を生成しています)
11. 管球式アンプ及び入出力トランスは特に消磁の効果が期待できます。

♪ 本器の活用法はまだありますが、ぜひ新しい活用法・応用法を考えてみて下さい。 ♪

設置と活用準備 (オーディオシステム・ヘッドフォン)

1. 本器の電源スイッチが OFF になっていることを確認してから、背面(2 図)の電源ジャックに付属の AC アダプターのプラグをしっかりと差し込み、アダプター側のプラグを AC コンセントに差し込みます。
2. 背面(2 図)のライン出力端子と、ご使用のアンプの AUX 入力端子を RCA(ピン-ピン)ケーブルで接続します。(L は白、R は赤に繋がります)
3. ソースセレクターやミキサーをお使いの場合、セレクターやミキサーの AUX IN に接続します。入力ソースを AUX に切り替えて下さい。
4. 本器のセレクトスイッチをあらかじめ消磁する目的に合わせて、1. Audio(オーディオシステム)、または3. Headphone(ヘッドフォン)のいずれかに切り替えておきます。
5. 本器の電源スイッチを ON にし、液晶表示画面に、LH クレジット表示から「Stand by」の表示に変われば準備は完了です。(安全上「Stand by」の表示が出てから約 0.2 秒間は、ACT スwitchの操作はできません)それぞれ1または3のセレクトランプが点灯します。
6. ご使用のアンプの電源を入れ、アンプ(またはヘッドフォンアンプ)は通常お聴きの音量ボリュームの位置またはやや大きめにしておきます。

AVセンターとサブウーファーについて



3 図 (底面パネル)

*AVセンター(サラウンドアンプ)のサブウーファー(スーパーウーファー/LFE)を消磁したいときは、セレクトスイッチを1. Audioの位置にしておくとそのままでサブウーファーまで消磁信号が届くようになっております。

セレクトスイッチが2. 及び3. でサブウーファーの消磁を行いたい場合は3図の底面スライドスイッチを上側「L側」に切り替えてから電源を入れてください。(1. Audioを選ぶとスライドスイッチの設定は無視されます)

*標準設定: 通常は3図のように工場出荷時のH側(下側)の設定にしております。

消磁周波数切り替えスライドスイッチは本器の電源を切った状態にしてから切り替えます。(安全のため、電源が入っているときに切り替えを行なっても消磁周波数は変わりません)

電源オンで切り替えが有効になります。(画面表示は変わりません)サラウンドアンプは 5.1~9.1CH「マルチチャンネル」等の設定にします。

オーディオシステムにサブウーファーがなく、ウーファーのみの場合でも、ネットワークのクロスオーバー周波数が高い場合、セレクトスイッチを

3. Headphone(ヘッドフォン)に切り替えて実行してみてください。こちらの方で聴感上効果が大きいと感じられる場合は、切り替えたままご使用頂いて構いません。

効果が大きい設定でお使い下さい。スライドスイッチとセレクトスイッチの設定により合成消磁信号全体が標準設定とは変わります。

本器ご使用の目安

1. Degauss(消磁)の実行時間は約 65 秒間です。音楽を聴く前に1度実行して頂くのが、お薦めです。(Degauss D:モード)
2. スピーカー等の Aging(エイジング)実行時間は目安として 20 分~30 分です。(Aging A:モード)
3. アンプの音量ボリュームは通常お聴きになる位置か、やや大きめにして下さい。アンプの音量ボリュームを絞り切ると消磁効果がありません。

各モードの使用法

*動作はモード切り替えスイッチにより機能が替わります。(実行時にはモードに従った表示に切り替わります)

1 Degauss モード (デガウス・モード) システム全体の消磁 (D:モード)

* 室内大小のホール、スタジオの音響装置にもご使用頂けます。

1. モード切り替えスイッチを Degauss 側にしておきます(切り替えただけでは表示は変わりません)。
2. ACT(アクティベート)スイッチを下に1回カチッと音がするまで押します。押し直したら、すぐに指を離して構いません。消磁が始まるとごく一部の消磁信号は基音及び倍音と空間合成波が音として聞こえます。(積和演算により、時間により音声スペクトルと強さが変化します)
☆誤って Aging 側のまま ACT を押しても、すぐに Degauss 側に切り替えて頂ければ、表示が残り時間に切り替わり、消磁は正常に行なえます。
3. 約 65 秒で消磁が終了します。(表示画面では終了までの残り時間が表示されます)
4. 「Stand by」の待機表示画面に戻ったら終了です。
5. アンプの音量ボリュームを最小にして、セレクターを使用する音楽ソース入力に戻します。

Aging モード(エイジング・モード) スピーカー及びシステムのエイジング (A:モード)

* エイジング・モードは半自動です。

1. 本器のセレクトスイッチを1. Audio(オーディオ)の位置にしてから本器の電源を入れます。
2. モード切り替えスイッチを Aging 側に切り替えます。(表示は変わりません)
3. ACT スwitchを下に1回カチッと音がするまで押します。すぐに離して構いません。
4. エイジングが始まります。「Running」の表示が点滅を始めます。このモードでは 15 秒経過しますと以後は一定の信号音が出力され続けます。一部の信号はエイジング中、音として聞こえます。(一定レベルですからこの状態で簡易テスト信号としても使えます)
エイジング実行時間は20~30分が目安ですが何時間行ってもかまいません)
5. エイジングを終了するときは電源スイッチを切らずに、モード切り替えスイッチを Degauss(上側)に切り替えます。50 秒で消磁を行なってから終了します。消磁せずにいきなり本器の電源スイッチを切らないでください。
6. Degauss 側に切り替え直後から残り消磁時間表示が始まり、最後にエイジング終了の表示が出ます。
7. 表示画面が待機表示「Stand by」に戻ったら終了です。

☆長時間(48時間等)のエイジング実行について☆

新規購入されたスピーカーなど、長時間エイジングを行いたい時

◇夜間等はうるさいのでエイジングの音を余り出たくない方(逆相エイジング)

エイジングの音が気にならない場所で行なう場合には以下は不要です。

*本器の信号出力はL/Rで同相信号が出ています。マイナス側はL/R共通の仕様です。そのため、本器の片側だけを逆相にして取り出す事はできません。そこで、対象のスピーカーシステムのL/Rどちらか一方を逆相(スピーカーケーブルの±結線を逆に接続)にして、スピーカーを向かい合わせて密着させることで、エイジング時の音が劇的に小さくなります。また、その上でバスレフポートをふさいでくと、エイジング中の音を大幅に抑圧することができます。(設置済みのスピーカーでも出来ます)

*逆相接続した場合、エイジングが終わったら必ずスピーカー結線の接続を元に戻して下さい。

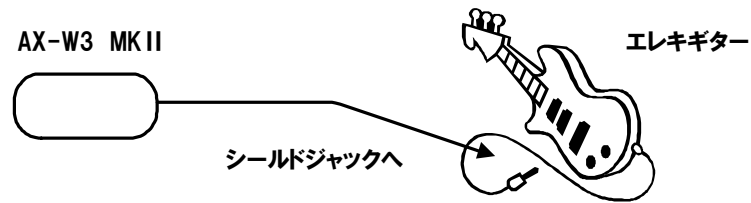
2 エレキギターのパickアップの消磁(パッシブ・pickアップのみ)

1. 4図のようなRCA-標準モノラルプラグの変換アダプター1本をご用意下さい。



4 図

RCAピン-RCAピン ケーブルの片側に変換アダプターを付けます



5 図

スライドスイッチをL側ではエレキベースに特に有効です。(スライドスイッチはL側にしますと低域が特に改善されます)

2. プラグをエレキギターのジャックに差し込みます。(エレキギターブリッジの下側付近にある、シールドジャック出力へ差し込みます)
3. シングル、ハムバッカータイプのpickアップのどちらでも、混在モデルでも消磁できます。
4. RCAケーブルのRCAプラグ側を本器の前面パネルにある「Instrument」と表示があるRCA端子につなぎます。
5. エレキギター本体のボリュームは80 [%] 付近にしておいて下さい。(目盛が最大10なら8の位置です)

! 本機を接続状態及び消磁実行中はギターを弾かないで下さい。(ギターから発生する信号電圧により、本器の内部を破損することがあります)

6. 本器のセレクトスイッチを 2. Instrument(楽器)の位置にしてから電源を入れます。
7. Degauss モード(D:モード)の操作手順でエレキギターのパickアップコイルを消磁します。曇った音から、シャープな音に戻すことができます。アクティブ・pickアップ(少数ですが、ギターにアンプやスピーカーを内蔵しているモデル)には使えません。
8. エレキギターにpickアップセレクターが付いているときは、セレクターでpickアップを切り替えて、本数分の消磁を行なって下さい。(信号音は聞こえません)
9. エレキギターのパickアップを最小に絞って、ジャックからプラグを抜いて下さい。

- * ギターアンプの消磁もRCA-標準モノラルプラグの変換アダプター(4図参照)により行なえます。
注意: ギターアンプの消磁の場合、ギターアンプのボリュームはエレキギターと本器の信号レベルが違うため、通常の4分の1以下のボリューム位置として下さい。(エレキギターの時の音量と同じ程度に合わせます)
最初はアンプの音量を絞ってから徐々に上げ、テストして(セッティングメモに記入をお奨めします)ください。
- * アンプ、スピーカー付き電子楽器(電子ピアノ等)で、ライン入力端子があるものはそのまま接続して消磁及び活性化することができます。

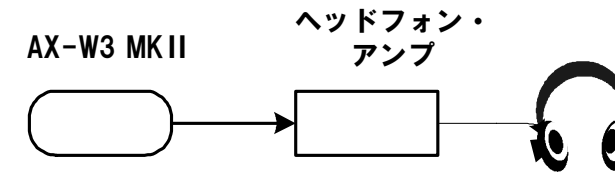
* Aging モードで10分程度実行し、pickアップやギターアンプ及びスピーカーを活性化することもできます。

3 ヘッドフォンの消磁(ダイナミック・ヘッドフォン)

* コンデンサタイプのヘッドフォンは活性化が期待できません。

1. アンプまたはヘッドフォン・アンプのヘッドフォン端子にヘッドフォンを接続します。本器との接続は「設置と活用準備」と同じです。
2. 本器のセレクトスイッチを3. Headphone (ヘッドフォン)の位置に切り替えます。
3. アンプまたはヘッドフォン・アンプの電源を入れボリュームを通常お聴きになる位置にします。
4. 本器の電源を入れます。
5. Degauss (デガウス・モード)の操作手順でヘッドフォンの消磁を行います。ACTスイッチを押してから約65秒で終了です。
6. ヘッドフォン・アンプのボリュームを最小にしてからヘッドフォンをジャックから抜いてください。

! その際、安全のためにヘッドフォンは耳に装着せずにご使用下さい。(大音量で聞いた場合耳に損傷を与える恐れがあります)



6 図

* ヘッドフォンにも Aging モードによりドライバーの活性化を行えます。

MC カートリッジ用昇圧トランスの消磁

1. MC 用昇圧トランスの INPUT (1 次側)と本器をRCA ケーブルで接続します。
2. MC 用昇圧トランスの OUTPUT (2 次側)の接続を外してオープンとします。(アンプから切り離して下さい)
3. 本器のセレクトスイッチは1. Audio にしておき、本器の電源を入れます。
4. Degauss モード(D:モード)の操作手順を行って消磁します。(信号音は聞こえません)
5. 「Stand by」の待機画面になれば終了です。

補足 マイク入力端子、フォノアンプ入力端子、CD 入力端子、ミニジャックのライン入力端子等他の端子からの消磁

- A. 本器からの出力を2百分の1(-46dB)に絞れるアッテネーターやミキサー(同じく2百分の1に設定することが必要です)を本器と入力端子との間に入れることで、カラオケシステム等も含め、マイク入力やMM用フォノアンプ入力から消磁することができます。
- B. アンプのCD/MD/VCRの音声L/R(アナログ)入力端子へは、本器の出力をそのまま接続頂けます。MC入力端子は接続できません。
- C. ミニジャックのライン入力へはRCAジャック(L/R)-ステレオミニプラグ変換ケーブルをお使い頂くと本器を使用することができます。
- D. ゲーム機等で使用中のアンプ、サラウンドアンプ等にアナログ入力端子があれば、そちらにも同様にご使用頂けます。

*ⁱ 出願番号(特願2010-174118)